

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	NEW HORIZON (東書・2)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○Unit (課) の各 Part は、左ページに「本文」「新出語句」「聞く」、右ページに「基本文 (補助説明あり)」「基本練習」「話す・読む・書く活動」で構成されており、4技能を総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○1・2学年には小学校で学んだ内容が掲載されており、円滑な接続ができるよう工夫されている。また、各学年の最初のページには、学年及び3年間の学習内容と到達目標が明記され、見通しを持って学習することができるようになっている。</p> <p>○学年ごとに「国際理解」「環境」「人権」「福祉」「自然科学」「伝統文化」など、発達の段階を考慮した題材を取り上げ、さらにリスニングとしてニュースや天気予報等を取り上げ、海外の生きた文化に触れる機会を設けている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各セクションに「基本練習」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動があり、他に辞書の使い方や発音記号などを学ぶ「学び方コーナー」や、文法事項確認のためのリスニング活動「Listening Activity」も用意され、基礎の定着と確認ができる構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年に3回ある Presentation では、スモールステップを踏みながら、既習事項を使って3文以上で1日の生活を発表するなど、町紹介や将来の夢等のテーマ別の自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。学年に数回「学び方コーナー」があり、英語の音の変化、辞書の使い方、文の構造などが示されている。同様に「まとめと練習」があり、自主的に文法事項を復習できるよう設定されている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○Daily Scene (場面別コミュニケーション)、Presentation (テーマ自己表現活動)、Let's Read (長めの読み物)、Listening Activity (文法事項確認リスニング) 等を通して、コミュニケーション能力を育成する工夫がされている。</p> <p>資料</p> <p>○巻末にはBonus Word Boxがあり、各学年の表現活動で使用する単語が挿絵と共に紹介されている。</p> <p>○各学年の学習段階に合わせ、1年には「手紙の書き方」、2年には「不規則動詞変化表」、3年には「1～3年基本文一覧」「Further Reading」等が用意されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○1学年ではブロック体、2・3年生では活字体を使用している。新出単語は1学年ではアクセント記号が、2・3学年では発音記号が併記されている。</p> <p>○1学年5課以降文字が小さくなり、行間も狭くなる。2学年以降さらに文字が小さくなり、3学年の名作鑑賞では行間も一層狭くなり、情報量が増えている。</p>
総括	<p>○変型A4判。</p> <p>○Unit (課)、Daily Scene (場面におけるコミュニケーション活動)、Presentation (自己表現活動) の3部構成となっている。</p> <p>○各学年の最初にUnit 0があり、前年度の復習から学べるようになっている。</p>

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	SUNSHINE ENGLISH COURSE (開隆堂・9)
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○Program (課) の各セクションは、左ページに「基本文 (説明あり)」「新出語句①」「聞く・話す活動」「聞く・話すを活用した活動」「ワード・ボックス」、右ページに「本文」「新出語句②」「QA」「書く活動」で構成されるとともに、通常課以外にも4技能ごとのPower Upセクションが用意されており、4技能を段階的・総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○3年間を見通したCAN-DO LISTがあり、定期的に自分の成長と到達目標を確認しながら学習を進めることで、学習への意欲を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○日本の伝統文化に関する題材や英米圏に偏ることなく広く世界各地の題材を取り上げるとともに、「環境」「平和」「人権」「自然科学」など、現代社会の事象や課題についても扱い、生徒に理解と課題意識をもたせる工夫をしている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各セクションの「基本文」は対話形式となっており、実用的である。また、「Listen」「Speak」「Try」の言語活動や、新出文法事項の練習問題などが設定されている。本文は右側に掲載されており、基本事項を十分に学んだ上で本文をじっくり学習できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年に3回あるMy Projectでは、スピーチやスキット、インタビューなどの自己表現活動が設定されており、3年間を見通した到達目標をもとに思考力・判断力・表現力の育成を図る工夫がされている</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各セクション最初には、学習目標が示されている。巻末にある「Can-Do List」は3年間を見通した自己評価を、また「英語のしくみ」では練習問題を通じて文法事項を確認することができるよう工夫されている。My Projectでは学び合う「協働学習」が設定されている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各課の終わりにPower-Upが用意されており、コミュニケーション活動を通して、4つの技能をさらに伸ばせるようになっている。また、各セクションにあるTryは耳と口で覚えた表現を使って友達とコミュニケーションを図る能力が育成されるよう工夫されている。</p> <p>資料</p> <p>○全学年に、「Basic Dialogのまとめ」「英語のつづり字と発音」「単語と熟語」等が収録されている。2・3学年では基礎・基本の受け答えを練習するクイックQ&Aがある。</p> <p>○1学年の巻末に切り離し可能なアクションカードがあり、様々なコミュニケーション活動で活用できるよう工夫されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○1学年の前半ではブロック体、9課から活字体が用いられている。1学年では各新出単語にアクセント記号が付記され、2・3年では発音記号が茶色で併記されている。</p> <p>○1学年5課以降やや文字が小さくなり、2学年以降さらに小さくなり行間も狭くなることにより情報量が増えている。</p>
総括	<p>○変型A4判。 ○左ページに言語活動、右ページに本文が掲載されている。</p> <p>○PROGRAM (課)、POWER-UP (コミュニケーション活動)、My Project (自己表現活動)の3部構成となっている。 ○CAN-DO LISTがあり、生徒が3年間を見通しを持って主体的に学習できるよう工夫されている。 ○基本文が対話形式で示され、実用的である。</p>

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	TOTAL ENGLISH (学校図書・11)
<p>教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかわり</p>	<p>○Lesson (課) の各セクションは、左ページに「本文」「新出語句」「コミュニケーションで活用できる情報」、右ページに「基本文」「聞く・話す・書く活動」「英語のリズム等」で構成され、また各 Chapter (章) の終わりにはそれらを総合的に用いた Chapter Project が用意されており、4技能をスモールステップかつ総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○1学年の Lesson 1 は一般動詞でスタートし、Lesson 3 で be 動詞を導入する構成となっており、小学校外国語活動との円滑な接続が図れるよう工夫している。</p> <p>○題材のテーマを「人」「ことば」「地球」とし、「生徒にとって身近な話題」「日本・世界の多様な文化」「自然科学」「環境問題」等、様々な題材を扱い、国際性や多様性について理解を深め、生徒自身に考えさせるよう工夫されている。</p>
<p>特色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各学年に、前年度の復習をする「Pre-Lesson」がある。各セクションには「基本文」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動が用意され、また各課の終わりにある Review で復習することにより、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○4つの Chapter (章) の終わりに設定されている Project において、ステップを踏みながら既習事項を用いて「Listening」「Writing」「Speaking」の面からスピーチや討論などの自己表現活動を行い、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○Chapter (章) ごとに、学習目標が示されている。Chapter (章) 末の Check It Out で文法事項を体系的に振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各セクションの基礎的な言語活動と、Talking Time、Chapter Project など応用的な言語活動によって、実践的な運用能力を養うよう工夫されている。また、Tips というコーナーで“Let's see.”などコミュニケーションに必要な表現を学べるようになっている。</p> <p>資料</p> <p>○巻末の More Words に種類別の語彙集があり、表現活動の際に使う語彙がイラスト付きでわかりやすくまとめられている。</p> <p>○巻末にある「基本単語のまとめ」「目標文の一覧」で、基礎基本を繰り返し学習することができるよう工夫されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○1学年ではブロック体が、2学年以降活字体が用いられている。単語には、1学年はアクセントの記号、2、3学年は発音記号が併記されている。綴りと発音の関係を学ぶ記述がある。</p> <p>○1学年3課以降文字が小さくなり、5課以降さらに小さくなる。2学年以降は行間も狭くなり、情報量が増えている。</p>
<p>総括</p>	<p>○B5判。 ○各学年とも Chapter (章)、Lesson (課)、Review (復習)、Project (自己表現) から構成されている。</p> <p>○1学年は Pre-lesson で小学校の復習をし、Lesson 1 は一般動詞から学習が始まるなど、小学校外国語活動との接続を考慮している。</p>

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	NEW CROWN (三省堂・15)
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教 科の目標 とのかかわり	<p>○Lesson (課) は GET (2セクション) と USE (1～2セクション) から成り立っている。 GET (基礎) は左ページに「本文」「新出語句」「基本文」「ドリル」、右ページに「聞く・話す・書く活動」「Word Bank」から構成され、USE (活用) は「読む・話す・書く活動」の多様な言語活動が掲載されており、4技能をバランス良く学べるように設定されている。</p> <p>○GET で学んだ基礎的・基本的な知識・技能をもとに、USE で繰り返し活用することで積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を段階的に育成するよう工夫されている。</p> <p>○「学び」「ことば」「伝統文化」「異文化」「自然理解」「社会理解」「人間理解」の7領域の話題を通して言語や文化に対する理解を深め、他を受け入れ尊重する心と態度を育成するよう工夫されている。</p>
特 色 内 容 資 料 表 記 ・ 表 現	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各 GET には、「POINT」「Drill (基本的な練習)」「Practice (Listen, Speak, Write)」が用意され、Lesson の終わりには「文法のまとめ」がある。また、本文は短く音読しやすくなっており、内容理解とともに新出文法や語句の習得を図る工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年に Project が3回用意され、レッスンで学んだことを生かして、マッピング手法や協働学習などを取り入れながら、「友達へのインタビュー」「大切なものを紹介」などの自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。各課の後ろ「文法のまとめ」で文法事項を体系的に振り返ることができるよう工夫されている。また、各学年2回ある「For Self-study」のコーナーでは、辞書が自主的に引くことができるよう工夫されている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各課にあるUSEで、基礎的な力を活用して4技能を用いた活動を行うとともに、各課の終わりにあるLet's Listen、Let's Talk、Let's Readで各技能を生かした活動を通してコミュニケーション能力を育成する工夫がされている。</p> <p>○巻末には「絵でわかる英語のしくみ」があり、文法事項を視覚的にわかりやすく説明している。また、発音の仕方を発音記号と絵を用いてわかりやすく説明している。</p> <p>○Further Readingとして長文の読み物が掲載されており、「読む」力の育成に配慮していることがわかる。</p> <p>○3年間を通してブロック体を使用し、部分的に手書き書体や活字体が使われている。新出単語は1学年ではアクセント記号、2, 3学年では発音記号が紫色で併記されている。</p> <p>○3年間を通じて文字の大きさ・行間は同じであり、必要事項を記入するのに十分な行間がとられている。ただし、Let's Readは小さい文字で書かれ、情報量が増えている。</p>
総 括	<p>○変形A判。 ○本文は3年間ブロック体で、行間も広いままである。</p> <p>○Lesson (課) は、「GET (基礎・基本)」「USE (基礎的な力を活用して読む・話す・書く活動)」「まとめ」から成り立ち、Project (自己表現) も用意されている。</p> <p>○1学年の最初には、小学校外国語活動をふり返るGet Readyがあり、接続を考慮している。</p>

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	ONE WORLD (教出・17)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○Lesson (課) はHop (2セクション) とStep (2セクション) から成り立っている。Hopは左ページに「本文」「新出語句」「基本文(説明あり)」、右ページに「聞く・話す・書く活動」「活動用の単語」から構成されており、Stepは本文が両ページに渡っている。また、別冊Essentialsがあり、学習した内容を活用して「聞く・話す・書く」の言語活動が掲載されており、本冊の学習をさらに深めながら4技能を総合的に育成するよう工夫されている。</p> <p>○各Lessonを振り返る活動(task)と、学習した様々な表現を使った発展的な活動(Project)があり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するよう工夫している。</p> <p>○「国際理解」「環境」「風俗習慣・地理歴史」「福祉」「自然科学」「伝統と文化」など様々な題材を取り上げ、身の回りのことから未来のことへと話題が広がるよう工夫されている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「聞く」「話す」「書く」を中心としたHopと、「読む」を中心としたStepで構成され、各セクションに「Listen」「Speak」「Write」の言語活動が用意され、基礎の定着と確認ができるよう工夫されている</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年に3回あるProjectでは、既習事項を活用して4技能の面から「将来の夢」「卒業スピーチ」などの自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各セクションには、学習目標が示されている。「辞書についていっしょに学ぼう!」では、各学年の学習段階に合った辞書の使い方を詳しく説明している。また、別冊の『Essentials』を用いて、学習した語句、連語、文法事項について自主学習できるよう工夫されている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各課の終わりにはJUMPがあり、4技能のコミュニケーション能力を育成する工夫がなされている。また、4技能のTipsが数回設けられており、相づちの打ち方などが学習できるようになっている。</p> <p>○巻末には、オプションの読み物や歌、重要構文復習リスト、自己チェックリストなどが用意されている。また課の間に「Time for Words」として場面別の語彙が挿絵と共に載っている。</p> <p>○別冊のEssentialsで、教科書で学習した語句・文法事項などを様々な活動を通して活用できるようになっている。</p> <p>○1学年の6課までブロック体、それ以降は活字体が使用されている。新出単語は1学年ではアクセント記号が、2・3学年では発音記号が併記されている。</p> <p>○1学年8課以降文字が小さくなり、2学年以降はより小さくなる。対話文では、話し手が替わる部分の行間がやや広く取られている。学年が上がるにつれて行間が狭くなる。</p>
総括	<p>○B5判。</p> <p>○Lesson(課)は、「Hop(「聞く」「話す」「書く」活動を中心に)」「Step(「読む活動を中心に)」「Jump(振り返り)」から成り立ち、Project(表現活動)も用意されている。</p> <p>○教科書で学習した語句・文法事項等を自主的に学習できる別冊「Essentials」がある。</p>

研究調査報告書

教科名 (英語)

項目	COLUMBUS 21 (光村・38)	
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○Unit の各セクションは、左ページに「本文」「新出語句」「コミュニケーション表現」「強弱や区切り」、右ページに「基本文」「聞く (ドリル)・話す・書く活動」で構成されており、4 技能を総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○活用をねらいとした You Can Do It!、自己表現をねらいとした Go For It!等を設けるとともに、買い物や道案内などを行う Skit Time などを設定し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫がされている。</p> <p>○中学校生活を舞台とした一貫したストーリーで、物語の展開を期待しながら学習を進めることができる。また、様々な国の文化や、環境、歴史、科学、偉人など多様な題材を取り上げた読み物資料により、多様なものの見方・考え方に触れることができるよう工夫されている。</p>	
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各セクションに「基本文」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動があり、基礎・基本の定着を図ることができる。また、各学年 7 回程掲載されている Language Focus では学習した文法事項を整理し、確認できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年に 3 回ある Go for it! では、既習事項を使って友達紹介や町紹介などテーマ別の自己表現活動が設定されている。また、各学年 1 回ある「英語で学び、考えよう (CLIL)」では、「食品と栄養素」など他教科の学習内容と重ねて学ぶことができるよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。Your Coach では、「辞書を使おう」「英語の音読を楽しもう」など、主体的に学習に取り組む工夫がされている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各課の最後に You Can Do It!があり、実際によくある場面で学習した英語を使うことができるかを確認できる。また、章の終わりには Go For It!、Let's Read を設けており、コミュニケーション活動を通して学習したことを定着させる工夫がされている。</p>	
	資料	<p>○言語活動で使用頻度の高い Word Square が教科書の中ほどにまとまって配置され、表とイラストを用いて生徒が使いやすい構成になっている。</p> <p>○Unit, Task, 資料など、それぞれのページの端が色分けされている。また、図や写真、漫画形式のイラストなどによって場面や内容を理解しやすいようになっている。</p>
	表記・表現	<p>○1 学年ではブロック体を使用され、2 学年以降ブロック体を使用されている。新出単語は 1 学年はアクセント記号が、2 学年以降は発音記号が紫色で付記されている。</p> <p>○2 学年以降、文字が小さくなり行間も狭くなって、情報量が増えている。3 学年巻末読み物資料はさらに行間が狭くなっている。</p>
総括	<p>○変型 A4 判。</p> <p>○Unit (課)、You Can Do It! (振り返り)、Go for It! (自己表現) から構成されている。</p> <p>○本文は、登場人物の 3 年間を追った一貫したストーリーとなっている。</p> <p>○「日本の歴史」等、他教科と言語を合わせて学ぶ学習方法 (CLIL) が掲載されている。</p>	